

Q11

不登校の子への段階的な支援とは？

まずは
ここから



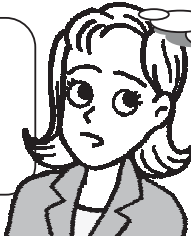
- 気持ちの面での余裕をもてるようにすることがはじめに考えることです。
- その上で，段階を踏んで活動の範囲を広げます。
- 自分で選択できる場面を意図的に設けます。

ヒロコさん（中3）は，長い間休んでいましたが，相談室に登校を始めました。ここで学習したり，自律学級のお楽しみ会や作業などにも参加したりするようになりましたが，通常の学級へ参加するにはもう一步の支援を必要としていました。

そんなヒロコさんへの支援体制を紹介します。

支援の方向 1

心の栄養補給と心のバランスを保つ
自律学級の仲間，スクールカウンセラー，
自律学級担任が積極的に声を掛ける。



まず，校内に安心できる居場所を作って，登校できることを目標にしていこう。

支援の方向 2

基礎学力をつける

未習部分の学習内容と通常の学級の学習進度
と同じ学習内容の個別スライドを用意する。

支援の方向 3

通常の学級への参加を増やす

参加に抵抗が少ない学活・給食・行事へ，
段階を踏みながら参加していく。

個別スライドの作成

複数の目で支援ができるように全教科に教科担任が配置されています。

スライド番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
原学級の授業	総合	選2	体育	数英	英数	社会	技家・美	選3B	国語	体育	数英	英数	
自律学級の授業	基礎	国語Ⅲ	自立	作業	音楽	英語	国語	国語Ⅲ	数学Ⅲ	家庭	英語Ⅲ	自立	理科Ⅰ
		社会Ⅰ					数学Ⅰ	数学	基礎		社会Ⅰ		基礎
相談室の授業	美術	国語	理科	体育	国語	技術	社・理	国語	数学	家庭	社会	英語	社・理
ヒロコさんの授業	総合	国語Ⅲ	自立	数英	英数	英語	社・理	国語Ⅲ	数学Ⅲ	家庭	英語Ⅲ	数英	基礎

教員が一人1~2時間の空き時間を工面して配置されています。

支援の方向 4 集団参加の力を高める

自律学級小集団→学年の習熟度別小集団→通常の学級
への学習参加というように，徐々に変化させていく。

支援の方向 5 進路を見据える

現在の興味関心を基に，将来につながる学習（高校
進学に向けての学習等）を少しずつ入れていく。



【キーポイント】 自律学級の担任が中心となり，校内体制として集団不適應の生徒の心の居場所を確保します。個別の時間割を準備するなど，本人自身が決めて生活できるようにすることで，自信と責任を育てることができます。

学校の実情に合わせ，可能な範囲で柔軟な対応ができるようにしたいものです。